

箏 と 尺八 Talk&Live



♪文化委員会イベントが開催されました♪

10月17日(土)13時30分より桜陽ホールにて箏奏者カート・パターソンさん(アメリカ出身)尺八奏者ブルース・ヒューバーナーさん(アメリカ出身)をお迎えしPTA主催のイベントが開催されました。

当日は在校生PTAに加え卒業生PTAのうれしい参加もあり90名近い参加がありました。

11時過ぎに到着されたお二人は、すぐ桜陽ホールで本番同様の入念なりハーサルをされ音の響き、会場の雰囲気を確認されました。



「アメリカ人が箏と尺八の演奏!どんな感じ?」と期待が高まるなか、佐藤副校長先生のご挨拶のあとお二人が登場。

一部はジャズの巨匠コルトレーン作「アフター・ザ・レイン」から始まり、自作の曲・アイルランド民謡・邦楽古典など様々なジャンルの曲を六曲。休憩。二部は三曲を演奏。会場からのアンコールに応え最後に「春の海」を演奏。高橋PTA会長のご挨拶で閉会となり盛大な拍手で終了。

カートさんは曲毎に箏の調弦しながら、ブルースさんは数本の尺八を使いゆかいなtalkを交えながらの演奏でした。生で聴く箏と尺八の音色は繊細でやさしく、また、素朴でありながら力強さと迫力があり十分に聴き応えがありました。

来日から20数年というお二人は流暢な日本語を話され穏やかで丁寧な語りで会場を和ませながら楽しませてくれました。また、お話のなかで「人が完璧ではないように和楽器も完璧ではなくあいまい。その、あいまいなところに自由があり奥深さがある」「和楽器の響きは生(せい)の響き。それを弦を使い表現するのが難しく魅力がある」と言われ和楽器への想いが伝わってきました。



参加者からは「なかなか接する機会のない和楽器の演奏を間近で聴けてとても良かった。穏やかな時間を過ごせ癒されました。生徒にも聴かせたかった」という感想を多数頂きました。

カートさんブルースさんから「皆様に支えられ無事盛会で演奏させていただきました。また、お目にかかれますように」とメッセージも届いています。

桜陽ホールがいやしのコンサートホールになった90分でした。

